

忘れえぬ山

藤本勇

私の数ある登山のなかで一番思い出に残っている山は「西穂高岳」です。

それは高校 3 年の昭和27年 5 月に高村と二人で登りました。学友はみんな修学旅行で九州に行っていた。

修学旅行をサボって山に出かけました。顧問の加藤先生にだけには言って行きました。クラスの先生の許可をとったかどうかは忘れました。

当時は連休明けなのにバスは上高地まで入らず、20キロ手前の奈川渡までしか入らず食料などを背負って歩きました。上高地の旅館も準備中。帝国ホテルの番人小屋に泊まりました。イワナ釣り師が数名泊まっていました。

翌日天気にも恵まれ3000m峰の西穂高を登り、上高地に降りて準備中の旅館でウイスキーの小瓶を買って二人で飲んだ酒は美味しかった。今と違って観光客もおらず上高地は静寂だった。

その時の山行きの模様は高村が達筆の文章で書いています。彼は家のカメラを持参して写真を撮ってくれました。その文章と写真は「二人だけの修学旅行」と題して高津のホームページに掲載されています。ぜひお読みください。

<http://kozu5.my.coocan.jp/6HP/takamurahujimotosyuugakuryokou2.html>

彼の死後に山の仲間が追悼集を出そうと決まりました。

大勢の方から追悼文があつまり立派な追悼集が出来ました。

追悼集の冒頭に高村の「二人だけの修学旅行」が写真を省いて掲載されています。

親族の方が 3 名。農学部関係が 9 名。京大山岳部関係が30名。高津山岳部関係が5名の方が寄稿されている。

その中に村尾が「高村と私」と題して書いてくれています。また高村夫妻と一緒にニュージーランドを旅した私の家内の旅日記が花を添えています。

改めて読んでみて彼がいかに多くの人から慕われ尊敬されていたかが分かった。

この高村の追悼集に関心・興味のある方は申し出てください。お貸します。